

2019年度 県小教研 表記の統一について

県小教研の表記は、「幼・小・中学校教育指導の重点」の表記を基にしています。

富山県小学校教育研究会

○ 2019年度「幼・小・中学校教育指導の重点」表記

2019年度版「幼・小・中学校教育指導の重点」の表記においては、常用漢字表を踏まえるとともに、「小・中学校学習指導要領」等、文部科学省が用いる表記を原則とする。

【参考資料】 「常用漢字表」（平成22年11月30日内閣告示）
「学習指導要領」「学習指導要領解説」（文部科学省）

1 主な語句の用例

語句	用例	備考
あ あいさつ あう（～しあう） あげる あじわう あたたかい あたる あてる あとで ありがた	挨拶 励まし合う 考えを出し合う 例を 挙げる 内容を 味わう ことができるように朗読する 温かい 学級づくり 当たる ～に 当たっては 授業時数を 充てる 後で 教材の 在り方	
い いえる いきもの いかす いっそう	主流であったといえる 生き物 を大切に 子供の考えを 生かしたり 創意工夫を 生かす 一層明確に	
う うえで うけとめる うつりかわり うちあわせ うるおい	～した 上で 相手の気持ちをしっかり 受け止める 様子の 移り変わり 外部講師との 打合せ うるおい のある教育環境	
お おく おく おける おこなう おさえる おもいやる おもしろさ および	育成に重点を 置く 通知して おく 学校図書館に おける 指導 行う 要点を 押さえる 他人を 思いやる 心 面白さ 子供たち 及び 保護者	
か かかわる かけ かしょ かたより	深く 関わり ながら 教材との 関わり の中で 言葉 かけ 四か所 偏り なく養われるように	

き	きづく きをつける きりひらく	気付 き 語句などの働きに 気付く 気が付く 気を付けて 話すこと 自分の人生を 切り拓く → 備考欄参照	「切り開く」であるが、意味合いから「拓」を使用する。
く	くみあわせる くみたて くらし くりかえし くる	組合 せ それらを 組み合わせ る 語句の 組立て 方 組み立て る 暮 らし 繰 り返し ～を 繰 り返す ～ して くる	
け	けが	事故で けが をする	
こ	こと ことがら こども こたえる ころ	経験した こと 決まりがある こと に 気付 き 事柄 の大体を理解しながら 子 供 → 備考欄参照 期待に 応 える 日 頃 から	常用漢字表では「子供」。文科省も平成25年度から「子供」を用いている。
さ	さい さしつかえ さまざまな さらに さらに	その 際 差 し 支 えない 様 々な意味があることを 更 に自分の考えを さ らに (接続詞の場合)	
し	しかた じくばり したがって したがう(～にしたがう) しゅうとく しゅうとく じょじょに	提示の 仕 方 字 配りよく書くこと し た が って、子供は 示すところに 従 い 基礎的・基本的な知識及び技能の 習 得 技術の 修 得 徐 々に	
す	すえる すぐれる すすめる すすんで すばらしさ すべて	基本に 据 える 表現の 優 れているところ 評価を 進 める 進 んで話し合う す ばらしさ 全 ての児童	
そ	そって (～にそって)	学習目標に 沿 って	
た	だいたい たえず たち だれ	出席者の 大 体の意見を 絶 えず人間性を磨き 子供 た ち 自分 た ち 誰	
つ	ついきゅう ついきゅう つくり づくり (～づくり) つくる づけ (～づけ) つける	課題を 追 究する 夢を 追 求する 体力 つ くり 環境 づ くり 健康 づ くり 自分 づ くり つ くりだす楽しさ 描く活動と つ くる活動 意欲 付 け 動機 付 け 位置 付 け 片 付 け ～を 付 ける	

て	できる できばえ てだて	改善することが できる 技の できばえ → 備考欄参照 子供への 手立て の工夫	一般的には「出来栄え」であるが、「できる」をひらがな書きすることから。
と	とう とおして とおり（どおり） とき とくに ところ ともに【接続助詞】 ともに【副詞】 とりあげる とりあつかい とりかた とりくみ とらえる	子供たちの 実態等 に配慮し → 備考欄参照 会議を 通して 次の とおり である 予想 どおり 事故の とき は連絡する 特に 示す 現在の ところ 差し支えない 活動すると ともに 共に 学ぶ 題材を精選して 取り上げる 取扱い 取り扱う 記録の 取り方 取組 の重視 問題解決に 取り組む 取り組み方 積極的に 捉える	等…ものごとを列挙する際、その一部だけを示して他を省略するのに用いる。
な	なおす なか なじむ など ならびに	癖を 直す ように 地域社会の 中 から 敬体の文章に なじむ こと 用意する などの → 備考欄参照 並びに	用言の後は「など」とすることを原則とする。 (⇒生徒の実態等…)
ね	ねばりづよく ねらい	粘り強く 実践する ねらい → 備考欄参照	常用漢字では「狙い」であるが、文科省の表記を用いる。
は	はかる はぐくむ はじめ はなしあい はやさ	指導との関連を 図る 豊かな心を 育む 学習指導を はじめ (ことのはじまり) 始め と終わり、 始まる、始める、手始め (時間的に早いと) 年の 初め、初めて、初めのうち、最初 話合いの結果 計画を話し合う 声の大きさや 速さ	
ひ	ひごろ ひとつひとつ ひとりひとり	日頃 の指導 一つ一つの語句の意味 一人一人	
ふ	ふまえる ふれあい ふれあい（ふれあう） ふれる	実態等を 踏まえて 触れ合い （名詞として使用する場合） ～と 触れ合い ながら（動詞として使用する場合） 折に 触れて	
ほ	ほか	他に ～の 他	
ま	または まちがい	又は 間違い	
み	みいだす みちか みつける みとおす みにつける みやすい	適切な教材を 見いだす よさを 見いだす 身近 な自然に触れる 見付ける 全体を 見通す 身に付ける 見やすい	

	みられる	～の傾向が みられた	
む	むかう むすびつく	向かう 結び付く	
め	めあて めざす	一人一人が 目当て をもち ～の育成を 目指して	
も	もうしこみ もしくは もつ（無形のもの） もつ（有形のもの） もって もと もと もとづいて もとより もの ものづくり	申込み もしくは 関連を もちつつ 自分の考えを もつ 用具の 持ち方 重い物を 持つ 愛情を もって 結果を 基 に（資料としての意） 指導の 下 （影響を受ける範囲の意）→ 備考欄参照 基づいて 基本的な考え方に 基づいた 体育の時間は もとより 、特別活動においても もの の見方 ものづくり や生産活動	※その他の「もと」は ひらがな書きで
や	やくだつ	態度を育てるのに 役立つ こと	
よ	よい よく よさ よしあし	よい 子 字配り よく 書くこと 一人一人の よさ 配列の よしあし を見分け	
わ	わかり わたり	意見や意図が 分かり 全体に わたり	

2 主な外来語の表記と略記

使用する	使用しない
アイディア	アイデア
コミュニケーション	コミュニケーション
コンピュータ	コンピューター
スケジュール	スケデュール
スタディ・メイト	スタディーメイト
スタディ・メイトジュニア	スタディメイト・ジュニア
ティームティーチング	ティームテーチング
ディスカッション	デスカッション
デジタルカメラ	デジカメ
ボランティア	ボランテア
Eメール	eメール
プロバイダ	プロバイダー
スクールガード・リーダー	スクール・ガードリーダー
シミュレーション	シュミレーション
コンビニエンスストア	コンビニ

(主な略記) ALT……………【Assistant Language Teacher】外国語指導助手
 JTE……………【Japanese Teacher of English】日本人の英語指導者
 HRT……………【Homeroom Teacher】学級担任